

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都品川区八潮 5 丁目 4 番 16 号 コーシャハイム八潮西 16 号棟 1F
園名	品川区立八潮西保育園

1. 活動のテーマ

『世界の国』～自分のオリジナル国旗～

<テーマ>

当園には現在、9 か国の国にルーツを持つお子さんが在籍し、日頃から生活しています。また、昨年度のクリスマスの行事では保護者の方に園に来園していただき母国のクリスマスの過ごし方を動画や写真、歌などで披露してくれ、日頃から他国の異文化や食事などに興味を持ち触れ合っている。そうした様子から子どもたちの興味・関心のある『世界の国』をテーマに設定しました。

<テーマの設定理由>

当園の子どもたちは日頃から多文化の環境の中で生活しています。4 歳児クラスでは『世界の料理』をテーマに毎月 1 回のクッキング遊びを楽しみに取り組む姿も見られ、他国の異文化や料理など身近に捉えながら生活できています。もともと興味関心も強く、普段の英語のカリキュラムも積極的に参加できていました。『世界の国』をテーマにすることで子どもたち自身、戸惑うことなくテーマに取り組めることや興味関心をさらに広げ、グローバルな考えを持つ子どもたちへの育成を踏まえ、『世界の国～オリジナル国旗～』をテーマに設定しました。

2. 活動スケジュール

【流れ】

11 月からカリキュラムの英語の中で『すくわくプログラム』が始まった。月に二回、英語講師に来園してもらい活動してもらった。1 回目 2 回目の活動では英語のカード遊びの中で国旗カードを使い、日本やアメリカなどの国旗とその国の食べものなどを英語で試みる活動に取り組み、それ以降の活動の中で、さらに国を増やし、色々な国を知る活動にした。終わりの活動に向けて、自分たちの国旗作りをするという流れになり、自分でマークや模様を描き、色塗りをして完成させた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】室内の中で子どもたちが遊びを通して世界の国や国旗が見られるようにした。

【素材、道具】

各クラスに世界の国旗やその国の細かい詳細が書いてある図鑑を準備する。

世界の国旗が描いてあり絵合わせで遊べるカード

世界地図や、地球儀を購入し、幼児クラスに貼ったり、置いておく。

4. 探究活動の実践

3.4.5 歳クラス：世界地図や色々な国の国旗に触れ、オリジナル国旗を作成していく中でアイデアを広げ、自分の国旗を作り発表する。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

3 歳クラス：すくわくプログラムを通して、日本やアメリカから知る。室内に貼ってある世界地図を子どもたち同士で見て、「アメリカってどこかな？」と頭を寄せ合って探す姿も見られた。また、絵合わせカードを使い、そのほかの国にも興味や関心をもつことが出来ていた。オリジナル国旗作りでは色鉛筆やクレヨンを使い、作り上げ友だちの前で発表していた。



【3 歳：カード遊びの様子】



【4 歳：図鑑を見ている様子】

4 歳クラス：クッキング活動の中でも世界の料理などを作っているという普段の様子から意欲的にすくわくプログラムに取り組めた。世界の国旗に興味を持つ姿があり、図鑑などで見ている中で「あれ？また星マークの国旗だ」「こっちは動物が描いてある」など国旗の特徴や色使いに興味を示し「それなら、仲間集めしてみようか」と保育者の声掛けで国旗の仲間集めの活動が始まった。まとめたものは保護者に見えるように掲示するなどした。そういった活動もあってか、自分たちのオリジナル国旗では縦縞、横縞、星マークなど実際にある国旗からヒントを得た国旗が出来上がっていた。

5 歳クラス：1 回目の活動で日本やアメリカの国旗や国について教えてもらった中で「アメリカのフットボールってどんなスポーツ？」という疑問が子どもたちから出たので保育者が用意した映像を見てフットボールについて知っていった。そこから、その国のスポーツや食事などからそれぞれの国に興味を示し、図鑑を子どもたち同士で見たりして知識を得ていった。また、オリジナル国旗を作成する際には様々な素材を使用してみたいと子どもたちからアイディアが出たので、色鉛筆、クレヨンだけではなく絵の具や折り紙、廃材の紙、丸シールなど様々な素材を用意し、用いて作りあげていた。発表では緊張する様子も見られたが、どこの部分を工夫したなど一人ひとりのアイディアあふれる国旗を友だちに発表出来ていた。



【5 歳：絵の具を使用してオリジナル国旗を作成している様子】

5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

日頃から世界の文化などに興味を示していた子どもたちだったからこそ、すくわくプログラムに意欲的に取り組んでいる姿が見られた。子どもたちは新しい物事に挑戦する時も意欲的に取り組んでいるが、普段の遊びの延長線上で取り組む活動には更に深く追及する姿を見せ集中して取り組むことが出来ていることはとても良い活動の一環になったと感じた。オリジナル国旗を作成する中でも年齢差はあるものの一人ひとりが「どんなのにしようかな？」とアイディアを広げ、頭の中で描いたイメージを実際に具現化することが出来ている姿に感心を得た。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都品川区八潮 5 丁目 4 番 16 号 コーシャハイム八潮西 16 号棟 1F
園名	品川区立八潮西保育園

1. 活動のテーマ

『オノマトペ』～身近な音について知ろう～

<テーマ>

当園は自然に囲まれた環境の中に園舎があり、普段の生活の中で鳥のさえずりや風の音、道を走る車の音などが良く聞こえます。そうした環境の中で、身近な音に興味を持ち、音を擬音化する『オノマトペ』の活動に子どもたちの興味関心が見出させ、より意欲的に楽しみながらすくわくプログラムの活動に取り組めるのではないかと考えテーマに設定しました。

<テーマの設定理由>

当園の子どもたちは園庭遊びの中で自然の音や車の音など様々な音に囲まれて生活しています。その聞いた音から真似をしてごっこ遊び（例えば、猫の鳴き声を聞いた後に友だち同士で猫になりきり「ニャゴニャゴ」などと言いつけている）を展開する姿がよく見られていた。そうした姿をより引き出し、遊びの中で展開する力を伸ばしていくようにしたいという考えの基、『オノマトペ』をテーマに設定しました。

2. 活動スケジュール

【流れ】

11 月からカリキュラムの音楽の中で『すくわくプログラム』が始まった。月に二回、音楽講師に来園してもらい保育士と協働しながら活動を実施した。11 月、12 月の活動では身近な音からオノマトペを探す、してみる。1 月の活動では楽器について知る、廃材でどんな音がするか考えてみる、鳴らしてみる。2 月、3 月の活動では絵本から広がる音やオノマトペを考えてみるというようにオノマトペを中心として活動に取り組んだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 普段の遊びの延長上に音にを聞くということに意識できるような声掛けをしたり、室内に楽器を設置して自由に演奏を楽しめるようにする。

【素材、道具】

段ボールで組み立てられる「カホン」の楽器を購入し、4歳クラスに設置する。

廃材を各家庭から集め、廃材で楽器が作れるようにボンドやセロファンテープ、輪ゴムなどを置き、楽器作りをする

木製の小さい木琴を購入し、設置する

4. 探究活動の実践

3.4.5歳クラス：園庭遊びや戸外活動を通して身近な音をオノマトペにしてみる。オノマトペについて知ることが出来たら、廃材で作った楽器や絵本の世界から聞こえてくる音を考え、実際に聞いたり歌ったりする。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

3歳クラス：保育者と一緒に戸外活動に出た際に、拾得した自然物からどんな音が聞こえるかな？などと問いかけると耳に当てて聞こうとする姿があった。また、普段から読み聞かせしてもらっている絵本の絵を見て、音のイメージを広げ、友だち同士で「こんな音じゃないかな？」と話し合う姿もあった。「三匹のこぶた」の絵本では、こぶた達が家を建てる時の音をイメージして発表する姿もあった。



【3歳：音を聞いている様子】



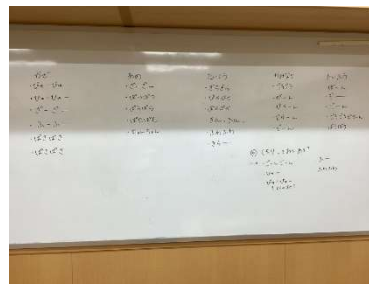
【4歳：園庭の音を聞いている様子】

4歳クラス：カリキュラム活動をきっかけに身近な音に意識して自分たちで聞いてみようという姿が見られた。雨が降っているときにテラスに出て園庭から聞こえる音に耳を傾けたり、室内から聞こえる音にはどんな音があるか探してみたりする姿もあった。室内で探した音などはグループごとに発表してクラスの友だち同士で共有できた。また、室内に段ボールの楽器「カホン」や木琴を設定しておく、と、友だち同士で「どんな音が鳴るか、音鳴らしてみよう」と演奏を楽しむ姿も見られた。

5 歳クラス：身近な物から聞こえる音では、講師が鳴らした音に近い音を探してみよう。室内遊びのおもちゃからどんな音が聞こえるかそれぞれのグループになって探求してみようという活動に意欲的に取り組み、見つけた音をグループごとに発表する姿が見られた。また、廃材で楽器を作ることに取り組む子どもが多く、自分で作ったオリジナルの楽器を演奏したり、それに合わせて歌を歌うことを楽しんでいた。



【5 歳：おもちゃの音を聞いている様子】



【5 歳：クラスで出し合った身近な音】

5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

普段の保育園生活の中でなにげなく聞いている音を擬音化する、すくわくプログラムに取り組んだが、遊びの中で自然と出来ている部分もあった。より保育者が意識していくことで、子どもたちの音のイメージを広げていくきっかけ作りが活動を通して、援助出来たと感じる。より意識したことで保育者も予想しないような音が出てくるなど、子どもたちのイメージする力が無限大であるという事に気付かされた。絵本を読み聞かせする際も、ただ単に読むのではなく、音も意識し、読み聞かせすることで子どもたちはより楽しんで聞くことが出来るのではないかと考え、保育の中でも展開していきたい。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都品川区八潮 5 丁目 4 番 16 号 コーシャハイム八潮西 16 号棟 1F
園名	品川区立八潮西保育園

1. 活動のテーマ

運動

<テーマの設定理由>

当園は園庭に数種類の固定遊具があり、身体を動かして遊ぶという機会が多く、子どもたちの基礎部分の身体能力が高いという姿がある。そうした中で、運動内で出てくる課題や伸ばしたいところを子どもたちが自分なりに見つけ、自信へと繋げていけるきっかけになればと思い、テーマに設定しました。

2. 活動スケジュール

【流れ】1月からカリキュラムの一環として体操遊びが始まった。体操遊びの中で月に二回、講師に来園してもらい講師を中心にすくわくプログラムを展開した。

テーマを決定する際は 3.4.5 歳クラスの担任保育者と共有し、それぞれのクラスで伸ばしていきたい力や課題（3歳クラス：バランス、4.5 歳クラス：ジャンプ）を決め、取り組むようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】園庭の環境設定の中で遊びを通して、バランス感覚が養えたりジャンプする力が養えるような遊びが出来るようにした。

【素材、道具】

遊びの中でケンケンパ遊びが出来るようラバーリングを準備する。ボールを準備して、探求の幅をひろげた

簡易的なトランポリンを購入、設置した。縄跳びやジャンプをするための商品を購入。バランス感覚を養うのにエバテムアイを購入した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

3 歳クラス：講師からの「片足でずっと立てる鳥さんって何かいるかな？」の呼びかけに「フラミンゴ！！」という声が出たので、フラミンゴに変身してみよう。遊びの中で動物ごっこなどカリキュラムをきっかけにして遊びが広がっていた。

園庭遊びの中でも、ケンケンパなどバランス感覚を養う遊びに集中していた。



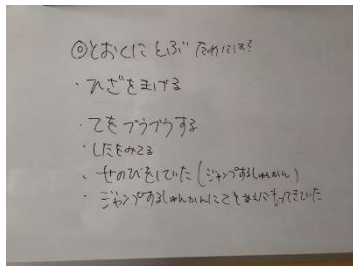
【3 歳：園庭遊びの様子】



【4 歳：グループ活動の様子】

4 歳クラス：ジャンプ力の向上をテーマに取り組む。講師からジャンプ力がアップするためには身体が柔らかい方がよいという話を聞きストレッチをしたいという声が子どもたちから上がった。講師を中心に体操の前はストレッチ運動をして身体を柔らかくするという流れになった。また、クラスの活動の中で、グループごとにどんな遊びや取り組みをしたら、ジャンプが上手になるか話し合いする場を設け、その中で「跳び箱はどう？縄跳びは？」などの意見が出た。

5歳クラス：ジャンプ力の向上をテーマに取り組む。1回目の活動の中でジャンプの測定をし、子どもたちがその時点でどのくらいジャンプで前に跳べるのかを自分自身が知ることから活動に取り組んだ。1回目の活動の後にクラスのグループごとに遠くまで跳べる方法の話し合いをし、それぞれから出た意見を出し合い、共有した。話し合いで出た意見をもとにクラス活動の中で再度、実践するようにした。



【5歳：話し合いで出た意見】



【5歳：再度、実戦形式で取り組む様子】

5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

普段の園庭での遊びの中で固定遊具を使ったり、かけっこや鬼ごっこ遊びをする中で楽しみながら身体の体力づくりや基礎となる力を培うことが自然と出来ていたかと思っていたが、バランスやジャンプ力などまだまだ子どもたちの可能性を広げるサポートが出来るということに改めて気付かされた。また、4.5歳クラスではグループやクラス単位でこういった活動に取り組めば良いか話し合う際に担任が仲介しないでも子どもたちから次々と意見などが出てくる姿があり子どもたちの考える力に気付かされた。

